

金融のグローバル化を考える

ヒアリングの依頼者

藤原 直哉（早稲田大学講師・金融コンサルタント）

霧見 誠良（法政大学比較経済研究所所長）

楠本くに代（東京都消費者センタ相談員）

吉田 忠明（トマト銀行社長）

増田 安良（富士総合研究所主任研究員）

金融のグローバル化が急速に進展する中、97年のアジア、98年のロシア、南米の金融危機に代表される国際的な金融混乱が多発しており、安定した国際金融システムの再構築がグローバルな課題となっている。そして、バブル崩壊後の不良債権問題が日本経済の長期低迷の要因となっていることや、アジア通貨危機がこれら諸国の経済に壊滅的打撃を与えたことに見られるように、金融混乱の実物経済および国民生活への影響は大きく、労働組合も金融安定化の実現に無関心ではいられない。

また、不良債権処理という後始末に加えて、護送船団方式を脱し、グローバル化の仲間入りでわが国金融システムの資源配分機能の活性化をめざす改革、いわゆる金融ビッグバンが始まっている。勤労者は主要な貯蓄主体であり、高齢社会の到来を控えて貯蓄の進む年金資産の受取者であり、本源的な資金運用主体である。故に金融問題に勤労者の視点を反映していくことは非常に重要である。

以上の問題意識から、連合総研では、「金融のグローバル化と今後のあり方」プロジェクトを発足させ、約1年間にわたり金融問題の識者の方々にヒアリングをおこない、勤労者の視点から金融システムの今後のあり方・改革の方向性について検討を行った。本書はその検討結果を今後の議論のたたき台としてまとめたものである。

目次

第I部 国際金融システム改革への視点

第1節 金融グローバル化の進展と開放的国際経済のトリレンマ

第2節 アジア経済危機に現れた国際金融市場の不安定性

第3節 国際金融システム改革の論点

第4節 むすび—国際金融システム改革への視点

第II部 金融改革の現状と課題 —勤労者の視点から—

第1節 日本版金融ビッグ・バンの推移

第2節 次世紀への二つの大課題

第3節 最悪のタイミングでの金融改革—平成大不況と金融ビッグ・バン

特別寄稿 当面の国際化に向けて —デノミで決意表明を—

岡山理科大学教授 小邦 宏治氏